

地域と世界のきずな



海の資源を守る

安土桃山時代に始まったとされる富山湾の伝統漁法「越中式定置網」。魚の豊富なこの地で培われた知恵が、世界各地に広がろうとしている。

富山湾



富山湾

能登半島の付け根にある大泊鼻(石川県七尾市)から黒部川の河口に位置する生地鼻(富山県黒部市)まで広がる内湾。沿岸からすぐ水深1,000メートルに達する海は、立山連峰から流れ込む栄養分豊富な表層水のほか、浅い部分には対馬暖流が流れ込み、深い部分には冷たい海洋深層水をたたえていることから、約500種の魚がすみ、多くの漁港が栄えている。特に、1570年ごろに始まった定置網漁が盛ん。



箱網の起こしを手伝う研修員たち。ただ引き上げるだけでなく、その場で仕掛けを海に戻していくことに驚いていた

「天然のいけす」の豊かさを生かす資源管理型漁業

午前3時。真っ暗な港に、漁船の明かりだけがともっている。救命胴衣を着けた研修員の1団が乗り込むと、船は沖を目指して走り出した。

「今日は一番箱を水揚げします」鹿渡島定置の酒井秀信社長が説明する中、かもめが一羽、手の届きそうな距離を船と並んで飛び始める。魚のおこぼれを狙っているのだ。

海岸沿いからすぐに水深が深くなり、海流が交じり合うことから魚の種類も量も豊富な富山湾は、俗に「天然のいけす」とも呼ばれている。ここで400年以上にわたって続けられてきた伝統漁法が、越中式定置網だ。

「網などを持って魚を追いかけると他の漁法と違い、定置網漁では仕掛けは長年その場に置かれています。ですから、漁礁と同じで魚の隠れ場所や産卵場所になり、魚を捕りながら増やせるんです」。酒井社長の説明に、アフリカからの研修員はしきりにメモを取った。

漁師が積極的に水産資源の総量を維持し、将来にわたって漁業の安定を目指す手法を、資源管理型漁業と呼ぶ。JICAでは北陸支部を中心に、日本で育った資源管理型漁業、特に定置網漁の技術を海外に発信するため、草の根技術協力や青年研修「地域管理型漁業コース」がたびたび開催され、世界各地から漁業関係者が招かれている。今回の青年研修には、フランス語圏ア

伝統漁法で



破れた網を、その場ですばやく繕って海に戻す。その場で戻すので、仕掛け直す手間が掛からない

フリカの8カ国から14人の研修員が集まった。二週間半の研修で、定置網漁のほか、魚の養殖や水産行政などについても学ぶ。

「地中海沿岸には20を超える国があり、競って漁をしています。水産資源の管理は私たちにとって大きな課題です」と言うのはアルジェリア漁業水産資源省のラドワン・ベンジニさん。アルジェリアの西隣モロッコから来た農水産省のハリッド・エルラヒミさんと、同じく東隣のチュニジアから参加したスファックス県農業開発地域事務所のムティア・ガルシさんも同じ意見だ。エルラヒミさんが「地中海にはアフリカだけでなく、ヨーロッパの国々もありますから」と言うと、ガルシさんがうなずいた。「しかも、魚は移動します。一つの国で資源を管理しても、隣の国が捕ってしまえば意味がないんです」

午前3時の出港に備えて漁船に乗り込む。中には初めて漁船に乗った研修員もいた

市場での競りを見守る。魚の急速冷凍など、日本の市場の設備にも感心していた

酒井社長は定置網漁法を行うだけでなく、船上で活け締めした魚の直販や、若手漁師の定着や定置網漁の知識の継承についてもさまざまな工夫を行っている。参加者は、直販での配達時間や鮮度と品質を保つ方法

集金の仕組みなどについて熱心に質問していた。翌朝には配達される宅配便や保冷袋を使った鮮度の維持、代金引換の仕組みなどを聞いたガボン農業者畜水

アフリカ漁業の課題解決に日本の知恵への期待

出港から30分。漁場に着く頃には、東の空がほんのり色づいていた。エンジン止め、漁師たちが左舷の巻き上げ機を使って網の引き上げ(起こし)に取り掛かる。最初は遠巻きに見ていた研修員たちだが、徐々に起こしを手伝い始めた。

定置網の起こしでは、網の端を一度持ち上げ、少しずつ内側を引き上げる一方で、端から順に海中に戻していく。



鹿渡島定置の事務所で見守る。赤い旗の左が酒井社長、その隣にいるのは若手漁師の栗原智章さんと順毛弘英さん

持ち上げている部分を徐々に狭めて網に掛かった魚を揚げると同時に、漁が終われば仕掛け自体は元通りになっている仕組みだ。なぜ網を落とすのか、どうやって魚を仕分け、活け締めするのか。研修員たちは網の引き揚げや柄つき網での水揚げ作業を手伝いながら、熱心に質問していた。

船が港に戻ったのは6時前。漁師たちが水揚げされた魚を仕分けて市場に運び込み、魚の種類ごとに競りが行われた。カメルーン家畜水産省のチエイニエベ・ポリス・タクンボさんは、「すばらしい漁法ですが、周辺地域の海底地形や魚の周遊ルートなどの情報があるからこそ効果的な漁場に仕掛けが作れるのでは。私たちの国では、そうした情報の収集から始める必要があるようです」と語った。「定置網漁では、今でこそ効率化のために巻き上げ機や動力船を使っていますが、もともとはそんな物がない時代から行われてきた漁法です。漁師の数さえ揃えば、皆さんの国でもできるはず」と強調した酒井社長。アフリカにこの技術を伝える気はあるんですか、と尋ねられて「もちろんです。ぜひ、一緒にやりましょう」と即答した。



富山湾で連続と受け継がれてきた伝統漁法が、世界の水産資源保護に貢献する日も近い